



- 本日は当社の決算説明会にご参加いただきありがとうございます。

本日の説明内容

- 決算総括
- 2023年3月期 上期 実績
- 2023年3月期 通期 見通し
- 販売ハイライト
- まとめ

- 本日の説明内容はご覧の通りです。

決算総括

- まずは今回の決算の総括です。

決算総括

- 上期は対前年で増収増益を達成、通期業績見通しを上方修正
- 第2四半期は、不安定な半導体調達、輸送船の不足などの影響により、目安としていた生産/連結出荷台数30万台には届かず
- 全領域での固定費の抑制、販売現場での単価改善、販売費用の抑制など、収益力改善は着実に進展
- 下期もオペレーションの質の改善を継続・強化
- グループ一丸で、一台でも多く、一日でも早いマツダ車のお届けに努力

- ・ マツダの上期決算は増収増益となり、通期業績見通しの上方修正をさせていただくこととなりました。
- ・ 上海ロックダウンの影響で赤字に沈んだ第1四半期の遅れを迅速に取り戻すため、上期の営業利益進捗率40%をチャレンジ目標と置き、グループ挙げて取り組んでまいりました。
- ・ その目標をクリアし、何とか下期のスタートラインに立つことができました。
- ・ 一方でこの間、お客様には引き続き納期などでご迷惑をおかけしており、大変申し訳なくお詫びを申し上げます。
- ・ お客様にマツダ車をお届けするため、調達や生産、デリバリーなど懸命に取り組んでいただきましたお取引先様、協力企業の皆様、販売店の皆様や弊社従業員には感謝し、御礼を申し上げたいと思います。引き続きグループ一丸となって、一台でも多く、一日でも早くマツダ車をお届けできるよう努力してまいります。
- ・ 上期は、経営環境が大きく変化をする局面を迎えました。為替環境、金利の上昇、原材料高騰、インフレ、ウクライナ危機などかつてない複合的な要因により先行きが非常に見通しにくい状況にあります。
- ・ その中、第2四半期は、台数面では、引き続き不安定な半導体調達状況と上海ロックダウンからの回復期にあった自動車輸送船の不足などがあり、計画の台数に対して未達となりました。
- ・ しかし、固定費抑制の継続に加え、販売現場での価格対応、上級グレード販売、販売費用の抑制など、台あたり収益改善に取り組んだ結果、収益力が引き続き改善した点を評価したいと思います。
- ・ 通期の業績につきまして、営業利益を1,400億円に上方修正いたします。なお、経常利益や親会社株主に帰属する当期純利益の上方修正は、為替前提を円安方向に見直したことにより、外貨建て資産の評価益が膨らむことが要因ですが、我々は下期もオペレーションの質の改善に焦点を当て、その継続にしっかりと取り組みます。

2023年3月期 上期 実績

- 2023年3月期 上期の実績についてご説明いたします。

2023年3月期 上期 台数実績

- ・第2四半期の生産台数、連結出荷台数は前年を上回る水準に回復
- ・グローバル販売台数は上海ロックダウンの影響で台数減となったものの、8月以降は前年並みの水準

(千台)	2023年3月期			対前年増減			
	第1四半期	第2四半期	上期	第1四半期	第2四半期	上期	
生産台数※	209	294	503	-59	+96	+37	+8%
連結出荷台数	166	284	450	-95	+64	-30	-6%
グローバル販売台数							
日本	25	43	68	-3	+11	+8	+14%
北米	79	101	181	-58	-10	-68	-27%
欧州	30	37	67	-25	-14	-40	-37%
中国	24	25	49	-23	-17	-40	-45%
その他市場	75	75	150	-11	+4	-7	-4%
合計	233	281	514	-120	-26	-146	-22%

MAZDA MOTOR CORPORATION

※月次公表ベース(中国を含むグローバル生産台数/OEM受給車両は含まない)

6

- ・ 2023年3月期上期の台数実績です。
- ・ 生産台数は、対前年8%増の50万3千台、
連結出荷台数は、対前年6%減の45万台、
グローバル販売台数は、対前年22%減の51万4千台となりました。
- ・ 第2四半期の3か月間では生産台数・連結出荷台数ともに回復が進み、前年を上回りました。
- ・ しかしながら目標としていた30万台以上の生産・出荷台数に対しては、不安定な半導体調達や輸送船不足などの影響もあり、目標を下回る結果となりました。
- ・ グローバル販売台数については、上海ロックダウンに起因する部品調達不足の影響があり、対前年で台数減となったものの、8月以降は前年並みの水準に回復しています。

2023年3月期 上期 財務指標

- ・台当たり収益の改善に加えて為替の円安による増益効果もあり対前年で増収増益、原材料価格の高騰や上海ロックダウンに伴う出荷台数減少などの減益影響をオフセット
- ・営業利益は、5月公表の通期見通し1,200億円に対して46%の進捗

(億円)	2023年3月期			対前年増減			
	第1四半期	第2四半期	上期	第1四半期	第2四半期	上期	
売上高	6,172	10,253	16,425	-1,862	+3,328	+1,466	+10%
営業利益	-195	747	552	-456	+611	+155	+39%
経常利益	207	897	1,104	-58	+823	+765	+226%
税引前利益	203	890	1,093	-51	+785	+734	+204%
当期純利益	150	709	859	+36	+584	+620	+260%
売上高営業利益率	-3.2 %	7.3 %	3.4 %	-6.4 pts	+5.3 pts	+0.7 pts	
EPS (円)	23.8	112.5	136.3	+5.7	+92.7	+98.4	
為替レート (円)							
USドル	130	138	134	+20	+28	+24	
ユーロ	138	139	139	+6	+9	+8	

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示す

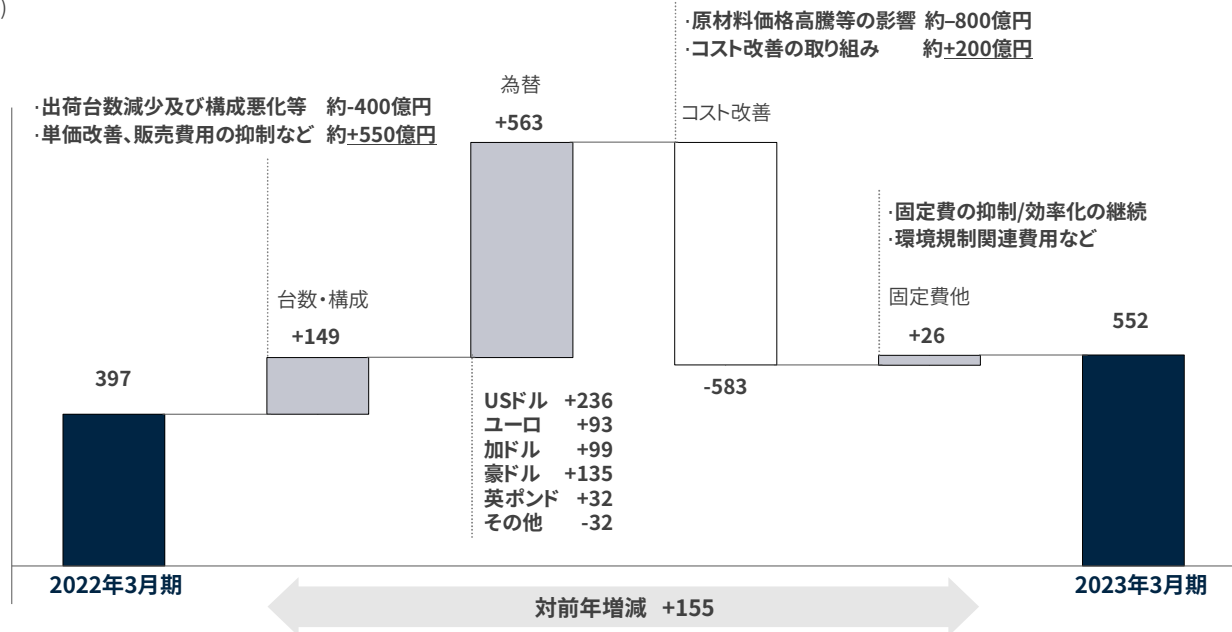
MAZDA MOTOR CORPORATION

7

- ・ 続いて財務指標についてご説明します。
- ・ 売上高は、対前年10%増の1兆6,425億円、営業利益は対前年39%増の552億円となりました。
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、営業外損益に為替評価益を計上したことなどにより、859億円となりました。
- ・ 為替レートの実績は、USドルは大幅な円安ドル高進行の影響により前年から24円円安の134円、ユーロは前年から8円円安の139円でした。
- ・ 台当たり収益の改善、固定費抑制などの取り組みに加え、為替の円安による増益効果もあり対前年で増収増益となりました。
- ・ また、上期営業利益の進捗率は46%となり、目標としていた40%を上回りました。

2023年3月期 上期 営業利益変動要因(対前年比較)

(億円)



MAZDA MOTOR CORPORATION

8

- 上期営業利益は、前年から155億円改善し、552億円の実績でした。こちらの変動内訳を説明いたします。
- 台数構成は、連結出荷台数の減少により約400億円の悪化があったものの、単価改善や販売費用抑制などにより約550億円改善し、149億円の増益。
- 為替はUSDドルを中心に大幅な円安が進んだことにより563億円の増益。
- 変動コスト領域は、コスト改善では200億円レベルの収益改善の成果が出ているものの、原材料価格や物流費の高騰等の影響により800億円近い減益影響があり、合わせて583億円の減益要因です。
- 固定費他は、各領域での効率化を継続し、償却費の増加や環境規制関連費用などの影響をオフセットし前年から26億円改善いたしました。
- 原材料価格の高騰や不安定な半導体調達など厳しい経営環境が継続する中、単価改善・販売費用の抑制・固定費抑制など全領域での取り組みに加え、為替の円安による増益効果もあり、対前年で増益となりました。

2023年3月期 通期 見通し

- 続きまして、2023年3月期 通期見通しについてご説明いたします。

2023年3月期 通期 グローバル販売台数

- ・通期販売台数は5月公表値に対して13万3千台減の121万6千台
- ・減産や輸送船不足などの影響を踏まえ計画を見直し

(千台)	2022年3月期	2023年3月期	対前年増減		対5月公表増減
グローバル販売台数	通期	通期	通期		通期
日本	149	181	+33	+22%	-10
北米	439	444	+5	+1%	-39
欧州	190	175	-15	-8%	-15
中国	170	110	-60	-35%	-60
その他市場	303	306	+2	+1%	-10
合計	1,251	1,216	-35	-3%	-133
米国	332	336	+4	+1%	-35
オーストラリア	103	94	-9	-9%	-9
ASEAN	78	86	+8	+10%	0

MAZDA MOTOR CORPORATION

10

- ・2023年3月期グローバル販売台数の通期見通しは、対前年3%減の121万6千台の見通しです。
- ・減産や輸送船不足などの影響を反映し、5月公表値から計画を13万3千台見直しました。
- ・対前年では、グローバルで3万5千台の減少となります。上期は対前年14万6千台の台数減となったものの、下期は今期新商品を導入した市場を中心に、対前年で約10万台 台数を伸ばす計画です。

2023年3月期 通期 財務指標

- ・連結出荷台数は、5月公表から8万台減の110万台
- ・単価改善や固定費抑制などの取り組みの成果に加え、為替前提の変更を反映し、全ての利益項目を上方修正

(億円)	2022年3月期	2023年3月期	対前年増減		対5月公表増減
	通期	通期	通期		通期
連結出荷台数 (千台)	991	1,100	+109	+11%	-80
売上高	31,203	39,000	+7,797	+25%	+1,000
営業利益	1,042	1,400	+358	+34%	+200
経常利益	1,235	1,700	+465	+38%	+650
税引前利益	1,124	1,500	+376	+33%	+500
当期純利益	816	1,300	+484	+59%	+500
売上高営業利益率	3.3 %	3.6 %	+0.3 pts		+0.4 pts
EPS (円)	129.5	206.4	+76.9		+79.4
為替レート (円)					
USドル	112	136	+24		+13
ユーロ	131	139	+8		+6

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示す

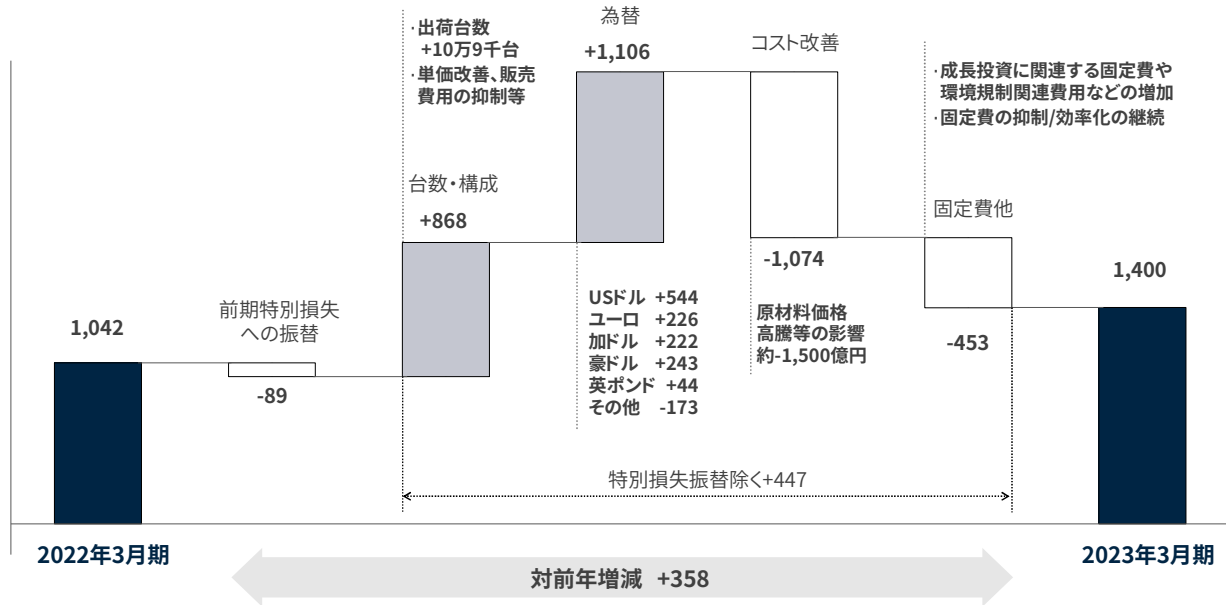
MAZDA MOTOR CORPORATION

11

- ・財務指標についてご説明します。
- ・連結出荷台数は、減産や輸送船不足などの影響を踏まえ、110万台の見通しとしております。
- ・売上高は、対前年25%増の3兆9,000億円、営業利益は対前年34%増の1,400億円、親会社株主に帰属する当期純利益は対前年59%増の1,300億円に見直しました。
- ・原材料価格の高騰や、金利の上昇、不安定な半導体調達など様々な不確定なリスク要因があるものの、台当たり収益の改善や固定費の効率化など各領域のオペレーションの改善に加え、為替前提の変更を反映し、通期見通しを上方修正いたします。
- ・通期の為替前提は、USドルを136円、ユーロを139円としております。

2023年3月期 通期 営業利益変動要因(対前年比較)

(億円)



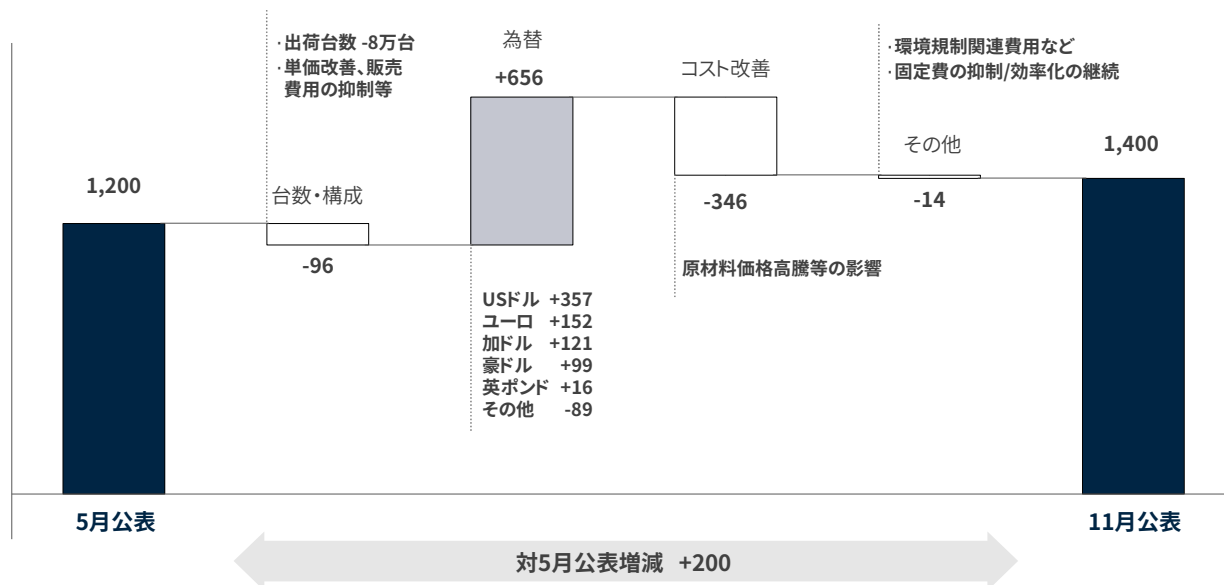
MAZDA MOTOR CORPORATION

12

- 通期営業利益の対前年変動、358億円の内訳を説明いたします。
- 台数構成は、連結出荷台数の増加や単価の改善、販売費用の抑制などにより868億円の増益、
- 為替はUSDドルを中心に前年から大幅な円安となる前提を反映し1,106億円の増益、
- 変動コスト領域では、原材料価格の高騰等による減益影響は1,500億円レベルとなる見込みです。コスト改善により約400億円オフセットする計画で、トータルでは1,074億円減益の見通しです。
- 固定費他は、ラージ商品や米国工場など成長投資に関連する固定費や100億円レベルの環境規制関連費用の増加がありますが、固定費効率化の継続により一部オフセットし、453億円の減益要因です。

2023年3月期 通期 営業利益変動要因(対5月公表比較)

(億円)



MAZDA MOTOR CORPORATION

13

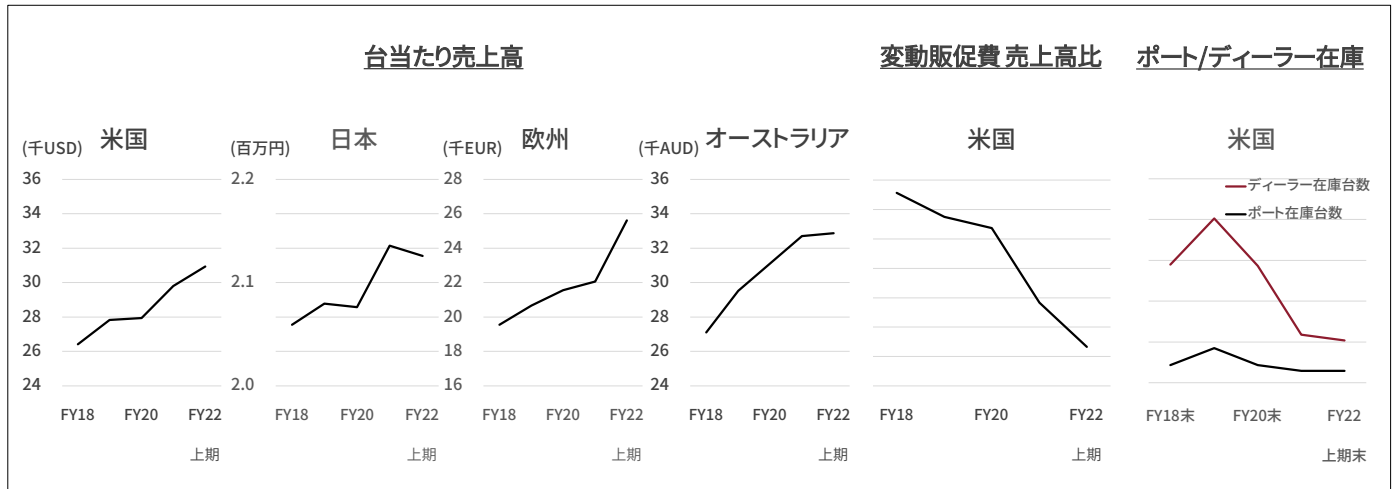
- 5月公表からの変動 200億円の内訳についてご説明します。
- 台数構成では、連結出荷台数の減少により減益影響があるものの、単価改善等で一部オフセットし96億円の減益に留めます。
- 為替は、足元の円安を反映し656億円の増益、
- 変動コスト領域は、原材料価格高騰等の影響により約350億円の悪化を見込んでいます。
- その他は、環境規制関連費用の増加による100億円レベルの減益影響を固定費の効率化でオフセットし、14億円の減益に抑える見通しです。

販売ハイライト

- 上期の販売領域の取り組みのハイライトをお伝えいたします。

販売の質の向上

- 引き続き供給が限られる中でグローバルに均等な配分を実施
- グローバルで単価改善や費用効率化を通じた販売の質的改善を継続



MAZDA MOTOR CORPORATION

15

- まず、第2四半期も半導体や部品供給の逼迫により、お客様への納期が長期化した事に対し、改めて販売店の皆様、並びに、お客様にお詫び申し上げます。
- 生産台数が限られる中、第2四半期以降回復している生産を最大限に活用し、各国の台当たり収益、受注状況、販社在庫、納車期間などを総合的に考えてグローバル最適の完成車配分を継続しています。
- 上期も、台当たり売上高の改善、変動販促費や固定販促費の抑制、効率的な在庫の運用などを通じて、継続的な販売の質的改善を実現しました。
- 変動販促費の調整を適切に行い、変動販促費の抑制が高残価をもたらし、金利上昇局面でも変動販促費を抑制する好循環につながっています。

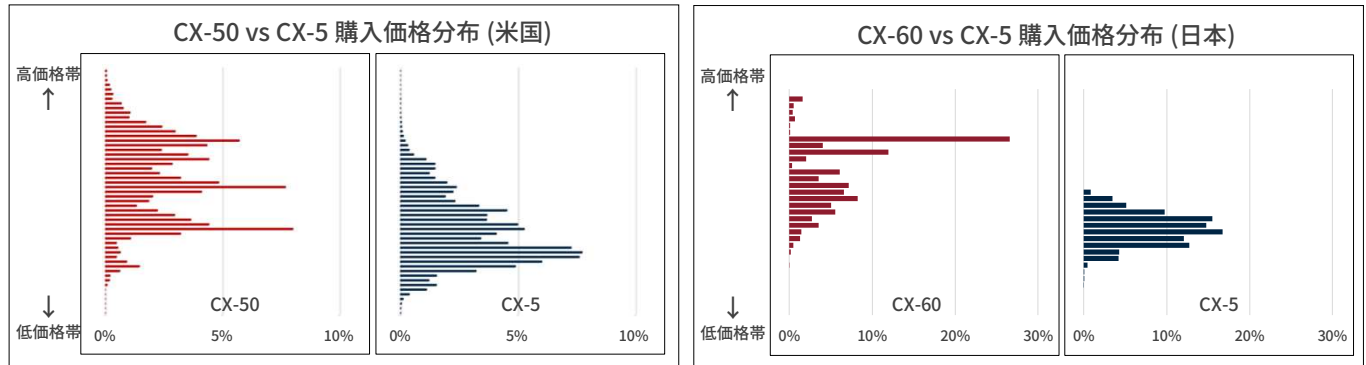
新商品の状況

■CX-60の受注は日本・欧州で堅調なペースで推移

- ・日本:14,000台 (10月末までの累計)
- ・欧州:19,000台 (10月末までの累計)

■CX-50は16,000台を販売 (4月から10月末までの累計)

■CX-50、CX-60とも、CX-5と異なる層のお客様を獲得



MAZDA MOTOR CORPORATION

16

- ・ 第1四半期以降、日欧でラージ商品群第1弾のCX-60を、北米でアラバマ新工場製CX-50を導入し、第2四半期も販売は順調です。
- ・ まずは、日欧市場におけるCX-60についてです。
- ・ 日本では、3.3L直列6気筒ディーゼルエンジン マイルドハイブリッドモデルを中心に、10月末時点で14,000台の受注を獲得しており、CX-5より上級価格帯でお買い上げいただいております。
- ・ 欧州では、2.5Lのプラグインハイブリッドモデルが、10月末時点で19,000台の受注を獲得しています。来年には3.3L直列6気筒ディーゼルエンジンマイルドハイブリッドモデルの追加も予定しており、更なる拡販を目指します。
- ・ 米国ではCX-50が、4月～10月末に16,000台を販売しました。ラインアップ内での適切な棲み分けがなされ、CX-5より更に上級の価格帯でお買い上げ頂いております。
- ・ いずれの車種も計画対比で上級グレードの販売比率が上がり、台当たり収益改善に寄与しました。

まとめ

- それでは、簡単にまとめをいたします。

まとめ

上期の総括

- 対前年で増収増益を達成
- 原材料高騰、生産制約による販売影響を収益力改善と為替でオフセット

下期の事業環境の想定

- 半導体不足、原材料高、輸送船の不足、米国における人手不足
- インフレ、金利上昇による景気後退リスク、事業環境は一層不透明

通期の見通し

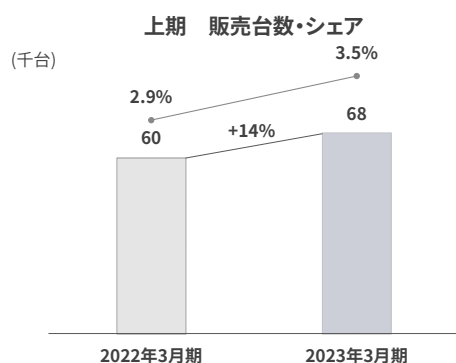
- 連結出荷台数は110万台。営業利益を1,400億円へ上方修正
- オペレーションの質改善、ラージ商品の新車効果、米国での販売力を強化
- 全社的原価低減活動促進により企業体質を一層強化へ
- 中間配当は5円増額の20円、期末配当20円と合わせて、年間配当予想40円

- ・ 上期は、原材料高騰、半導体調達、上海ロックダウンなどサプライチェーンに関連する問題などで、生産台数に制約がかかり、販売を伸ばせませんでした。が、単価改善やコストの抑制管理などで、収益力を着実に強化しました。また、為替の追い風が原材料高を一部打ち消し、増収増益となり、営業利益進捗率はオントラックに戻りました。
- ・ 下期は、引き続き半導体の逼迫、原材料の高止まりの環境の継続に加え、輸送船の不足や米国市場における人手不足による生産制約、またインフレ抑制のための金利上昇による景気後退リスクなど一層不透明な事業環境になると想定します。
- ・ 通期においては、出荷台数を110万台に見直し、利益見通しは5月公表から上方修正し、営業利益 1,400億円、経常利益1,700億円、親会社株主に帰属する当期純利益1,300億円の見通しです。
- ・ 引き続きオペレーションの質の改善強化に焦点を当て、台当たり収益の改善、固定費の抑制を行いつつ、CX-60の生産拡大やCX-90の生産の開始などラージ商品の新車効果によるモメンタムを出していきます。
- ・ 販売面では、特に米国においては、オープン済みの次世代店舗250店舗のパフォーマンスが上がっており、12か月以内に360店舗までさらに増加するので販売力がさらに強化される計画です。
- ・ 加えて、サプライチェーン再構築を含む、全社的原価低減活動を推し進め、筋肉質な企業体質へ向け取り組みを進めます。
- ・ 最後に、配当に関しては、中間配当を5円増額の20円とさせていただき、年間配当予想を40円に修正させていただきます。下期の経営環境は一層不透明な状況ですが、今後も安定的な配当の実現と着実な向上に努めます。



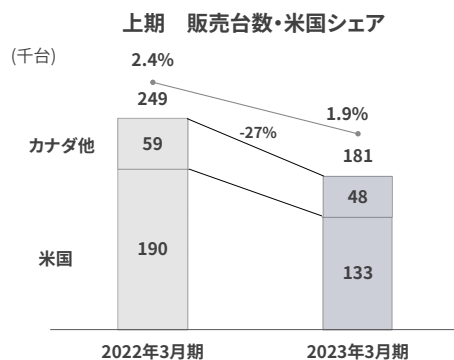
添付

日本



- 販売台数は、対前年14%増の6万8千台
- シェアは対前年0.6pts増の3.5%、登録車シェアは同1.1pts増の4.6%
- 9月よりラージ商品群第1弾の「CX-60」を発売、高価格帯グレードを中心に計画以上の受注を達成。マツダ車からの乗り換えに加えて、より上質なSUVを求める新規のお客様からも多くの受注を獲得
- CX-5の商品改良モデルが好調を継続、CX-60と共にSUV商品群として販売回復を牽引
CX-3/ロードスターも特別仕様車を中心に販売好調

北米



■販売台数は、対前年27%減の18万1千台

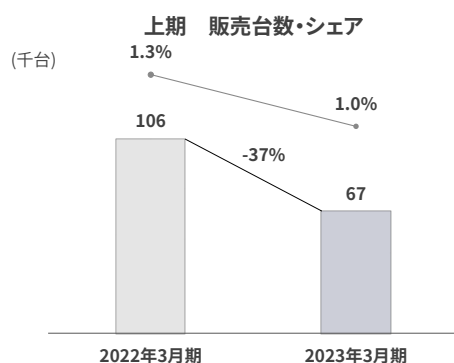
■米国:対前年30%減の13万3千台

- シェアは対前年0.5pts減の1.9%
- 上海ロックダウンに起因する減産影響により対前年で販売台数減少
- 商品供給状況に合わせた販売費用の抑制・効率的な在庫運用を継続
- CX-50はアウトドア志向のお客様を中心に好評をいただき、新たなお客様層を獲得

■カナダ:対前年28%減の2万7千台

■メキシコ:対前年1%減の2万台

欧州



■販売台数は、対前年37%減の6万7千台

■シェアは対前年0.3pts減の1.0%

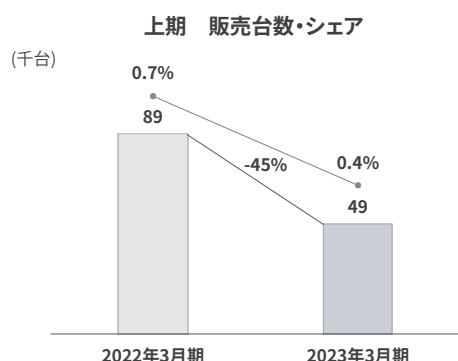
■上海ロックダウンに起因する減産影響により対前年で販売台数減少

■第2四半期よりCX-60のプラグインハイブリッドモデルを導入
高い環境性能に加えて、優れたデザインや走行性能が評価され、計画を上回る受注を達成

■主要国の販売

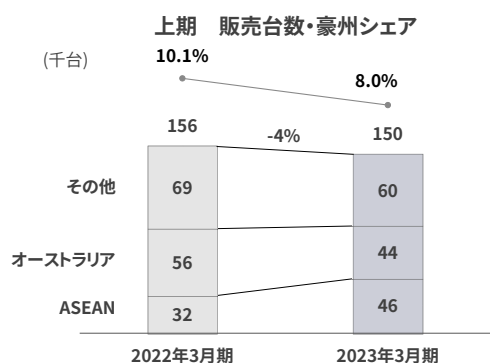
- ドイツ:対前年40%減の1万4千台
- 英国:対前年28%減の1万2千台

中国



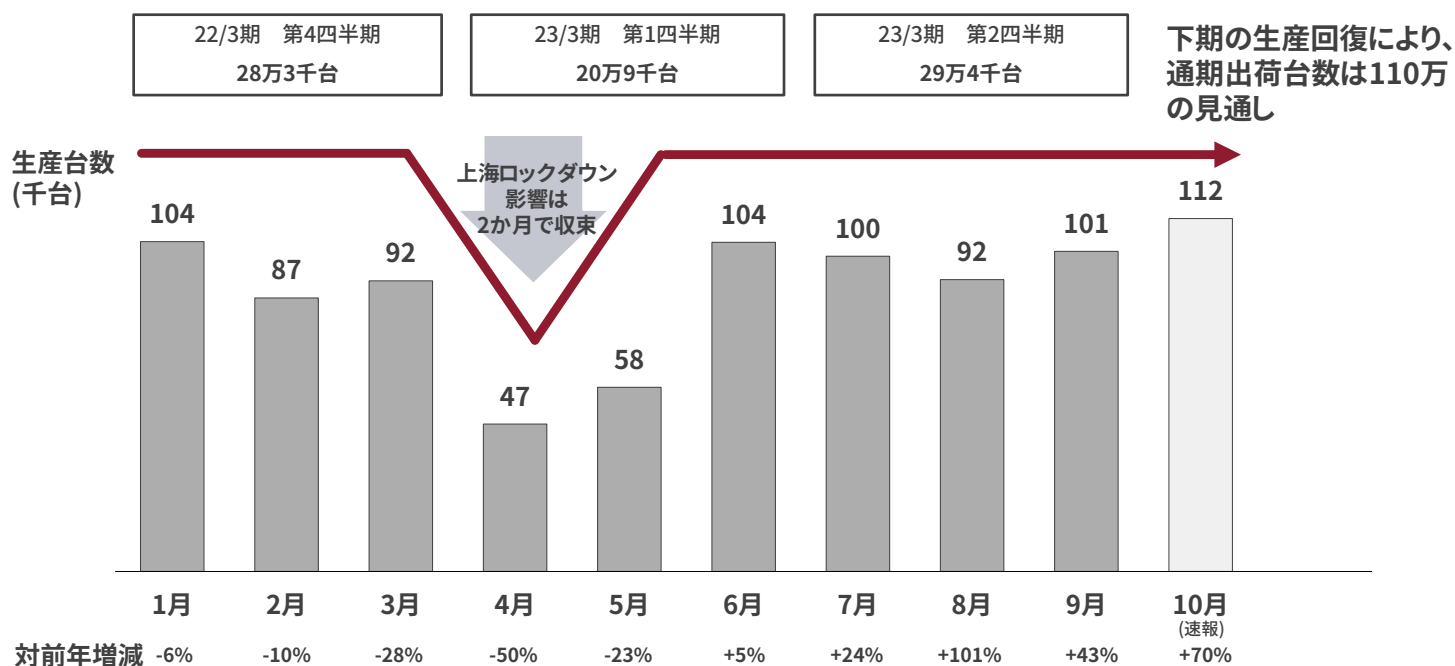
- 販売台数は、対前年45%減の4万9千台
- シェアは対前年0.4pts減の0.4%
- 上海ロックダウンに起因する減産影響や販売活動の制限などにより対前年で販売台数減少
- マツダは価格競争からは一定の距離を置きつつ、正価販売の継続・販売ネットワークの強化に注力

その他市場



- 販売台数は、対前年4%減15万台
- オーストラリア:対前年21%減の4万4千台
 - シェアは対前年2.1pts減の8.0%
 - 上海ロックダウンに起因する減産影響により対前年で販売台数減少
- ASEAN:対前年45%増の4万6千台
 - 減産影響はあったが、ロックダウンで主要国の需要が激減した前年同期との比較では台数増
 - タイ:対前年13%増の1万7千台
 - ベトナム:対前年137%増の1万7千台

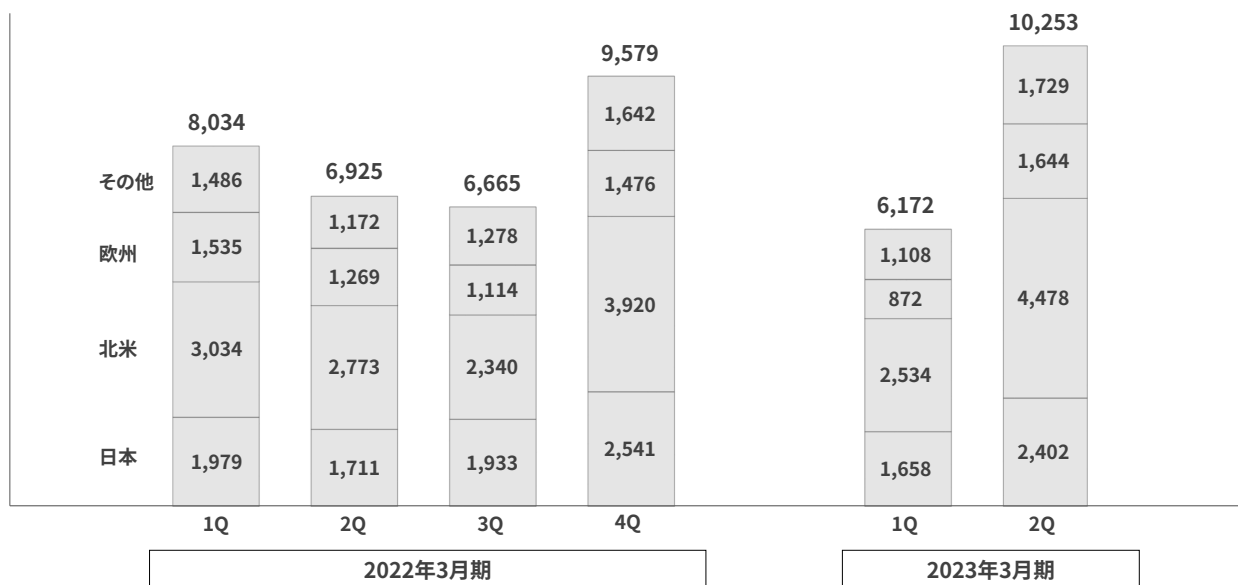
生産台数について



※月次公表ベース (中国を含むグローバル生産台数/OEM受給車両は含まない)

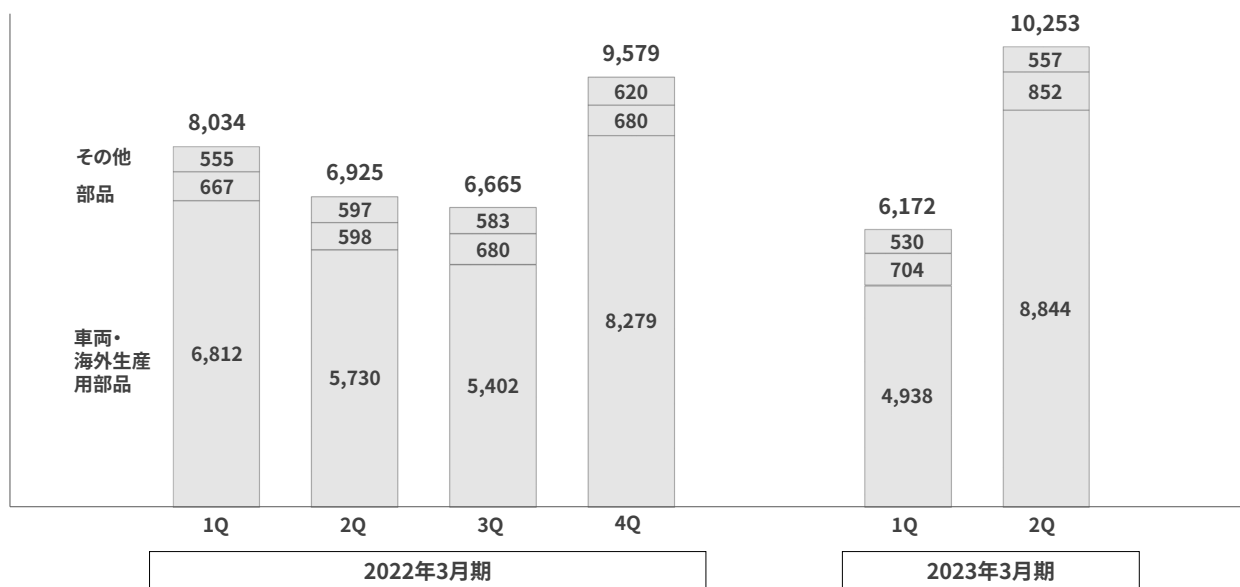
売上高 所在地別

(億円)



売上高 製品別

(億円)

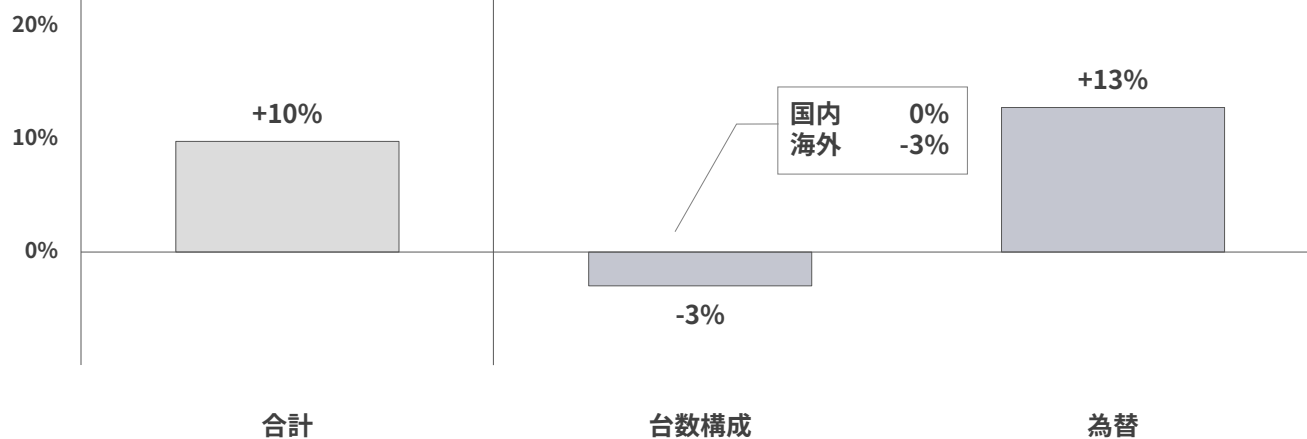


売上高変動内訳(6ヵ月累計)

2023年3月期 上期 対前年比較

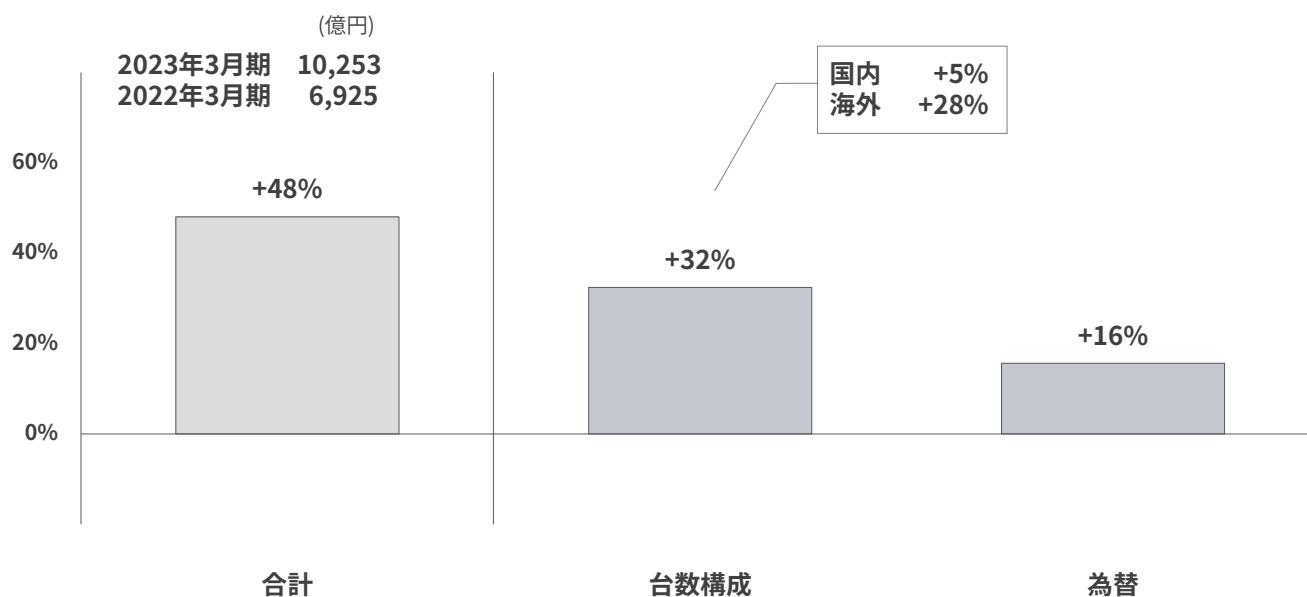
(億円)

2023年3月期 16,425
 2022年3月期 14,959



売上高変動内訳(3ヵ月)

2023年3月期 第2四半期 対前年比較



キャッシュ・フロー及びネット・キャッシュ

(億円)	2022年3月期	2023年3月期	対前期末増減
	通期	上期	
営業キャッシュ・フロー	1,892	-6	-
投資キャッシュ・フロー	-1,362	-500	-
フリー・キャッシュ・フロー	529	-506	-
現金及び現金同等物	7,404	7,772	+368
有利子負債	6,808	7,303	+495
ネット・キャッシュ	596	468	-128
総資産	29,681	32,306	+2,625
自己資本	13,011	14,131	+1,120
自己資本比率	44 %	44 %	0 pts

2023年3月期 第2四半期 グローバル販売台数及び連結出荷台数(3ヵ月)

(千台)	2022年3月期	2023年3月期	対前年増減	
グローバル販売台数	第2四半期	第2四半期	第2四半期	
日本	32	43	+11	+34%
北米	111	101	-10	-9%
欧州	51	37	-14	-28%
中国	42	25	-17	-40%
その他市場	71	75	+4	+6%
合計	307	281	-26	-8%
米国	84	73	-11	-14%
オーストラリア	23	24	+1	+4%
ASEAN	13	21	+8	+63%

連結出荷台数	第2四半期	第2四半期	第2四半期	
日本	31	43	+12	+38%
北米	88	113	+25	+28%
欧州	41	41	+1	+2%
その他市場	60	87	+27	+46%
合計	220	284	+64	+29%
米国	72	83	+11	+16%

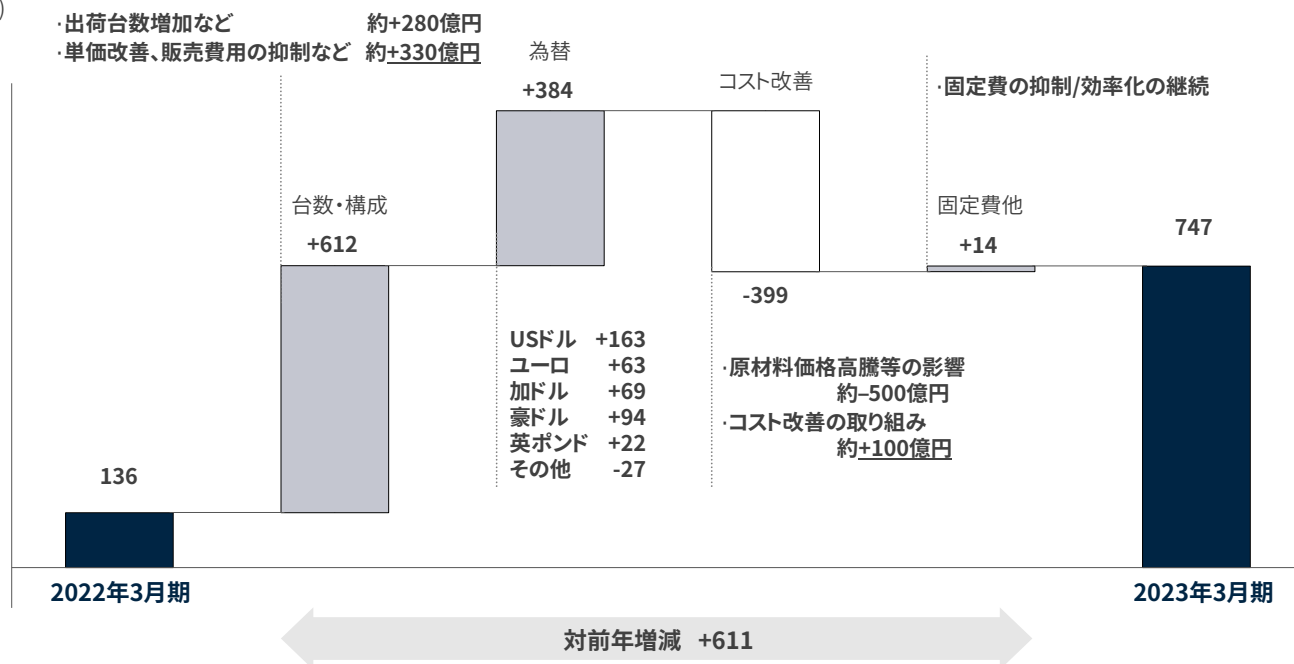
2023年3月期 第2四半期 財務指標(3ヵ月)

(億円)	2022年3月期	2023年3月期	対前年増減	
	第2四半期	第2四半期	第2四半期	
売上高	6,925	10,253	+3,328	+48%
営業利益	136	747	+611	+448%
経常利益	74	897	+823	-
税引前利益	105	890	+785	+750%
当期純利益	125	709	+584	+468%
売上高営業利益率	2.0 %	7.3 %	+5.3 pts	
EPS (円)	19.8	112.5	+92.7	
為替レート (円)				
USドル	110	138	+28	
ユーロ	130	139	+9	

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示す

2023年3月期 第2四半期 営業利益変動要因(対前年比較)

(億円)



2023年3月期 通期 グローバル販売台数及び連結出荷台数

(千台)	2023年3月期		
グローバル販売台数	上期	下期	通期
日本	68	113	181
北米	181	263	444
欧州	67	108	175
中国	49	61	110
その他市場	150	156	306
合計	514	701	1,216
米国	133	203	336
オーストラリア	44	50	94
ASEAN	46	40	86

連結出荷台数	上期	下期	通期
日本	70	102	172
北米	177	266	442
欧州	63	105	168
その他市場	140	177	317
合計	450	650	1,100
米国	130	200	330

対前年増減				対5月公表増減
上期	下期	通期		通期
+8	+24	+33	+22%	-10
-68	+72	+5	+1%	-39
-40	+25	-15	-8%	-15
-40	-19	-60	-35%	-60
-7	+9	+2	+1%	-10
-146	+111	-35	-3%	-133
-57	+61	+4	+1%	-35
-12	+3	-9	-9%	-9
+14	-6	+8	+10%	0

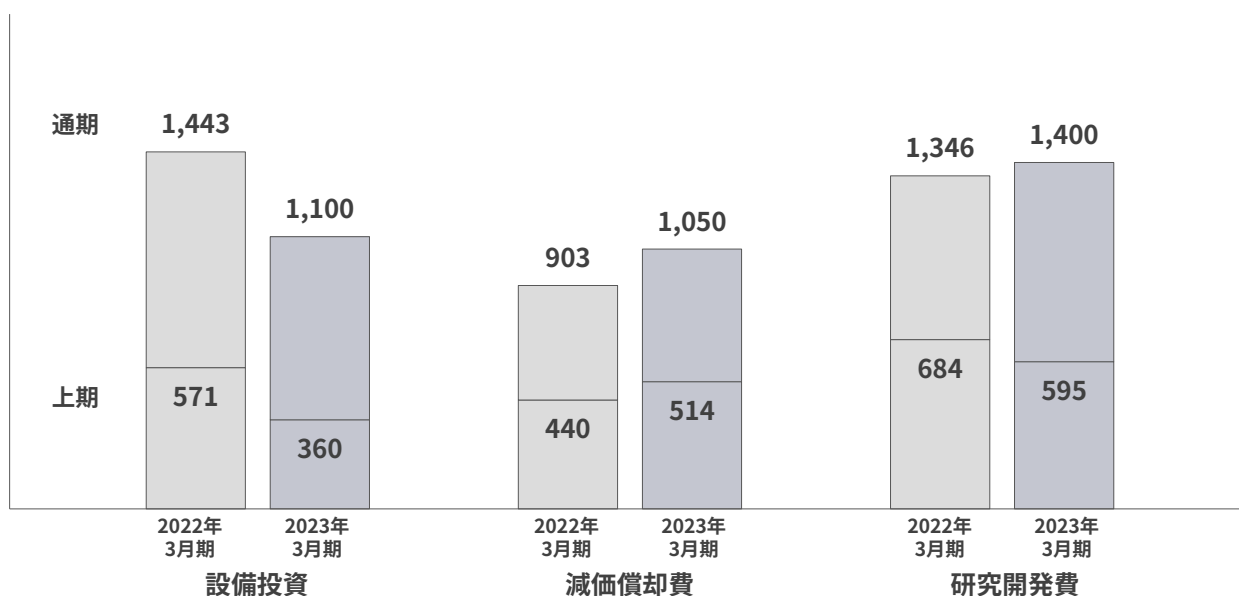
上期	下期	通期		通期
+2	+19	+20	+13%	0
-13	+70	+57	+15%	-47
-28	+26	-1	-1%	-19
+8	+25	+33	+12%	-13
-30	+139	+109	+11%	-80
-18	+50	+32	+11%	-44

為替レート

(円)	2022年3月期	2023年3月期			対前年 増減			対5月公表増減
	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期
USドル	112	134	138	136	+24	+23	+24	+13
ユーロ	131	139	139	139	+8	+9	+8	+6
カナダドル	90	104	102	103	+16	+11	+13	+6
オーストラリアドル	83	94	90	92	+11	+6	+9	+3
英ポンド	154	163	157	160	+10	+2	+6	+1

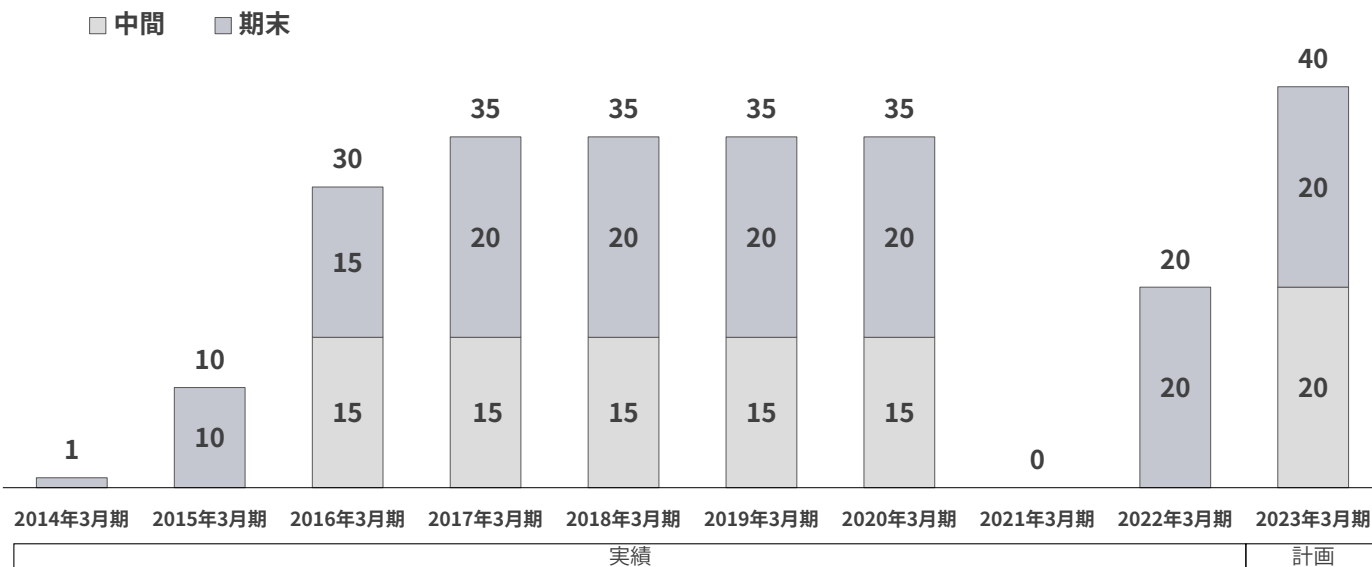
主要データ

(億円)



配当について

一株当たり配当金 (円)



注) 2014年8月1日付で普通株式について5株を1株の割合で株式併合を行っております。
一株当たり配当金は各年度における実際の配当金額を表しています。

将来見通しに関する注意事項

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の見通し及び将来の戦略については、今後の世界経済情勢、業界の動向、為替変動のリスクなど様々な不確定要素が含まれております。従いまして、実際の当社業績は見通しと大きく異なる結果となる場合があることをあらかじめご了承ください。

投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の判断で行われるようお願いいたします。当プレゼンテーション資料に掲載された情報に基づいて投資された結果、万一何らかの損害を被られましても、当社および各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承ください。

